

平成30年度 技術講演会 プログラム

司会者 埼玉県地質調査業協会 技術委員 野入久幸

13:15～13:25 会長挨拶 埼玉県地質調査業協会 会長 越智勝行

13:25～14:25 演題 1：御嶽山～2014年噴火とチバニアン基底の白尾(びやくび)火山灰層～

講師：信州大学教育学部 准教授 竹下欣宏

講演要旨： 2014年9月27日、突如として噴火し甚大な被害をもたらした御嶽山。紅葉シーズンであり、噴火発生が昼ごろであったため、山頂周辺にいた多くの登山者により噴火が目撃され、多くの動画や写真が残されました。こうした記録と山頂周辺および遠方地域での降灰調査によって明らかにされた2014年噴火について紹介します。

また、最近話題の地質時代チバニアン。実はチバニアンの始まりを告げる白尾火山灰は、約77万年前に御嶽山が大噴火を起こした名残であることが明らかになりました。千葉県の地層に挟まれた火山灰が、なぜ250kmも離れた御嶽山から噴出したものだとわかったのか、その理由を紹介したいと思います。

14:25～15:25 演題 2：福島第一原発における凍土壁対策のプロセスとインパクト

講師：国立研究開発法人 産業技術総合研究所
地質調査総合センター 地圏資源環境研究部門 総括研究主幹 丸井敦尚

講演要旨： 福島第一原発における汚染水処理対策の切り札として、世界に類を見ないほど大規模な凍土壁が選択され、着工に至った。予定を少し遅れてはいるが、現在は順調に稼働している。本講演では、当該地の地質環境をふまえたうえでの地下水流動を紹介し、2012年当時に基準とされた条件やその後の工程などを見直し、対策そのもののプロセスについて議論する。また、現状での完成度合いを見据えたうえで、壁としての機能や目的の達成度についても確認しつつ、現時点で残された課題について議論したい。

15:25～15:35 休憩

15:35～16:35 演題 3：揮発する化学物質による地下水・土壌汚染の評価

講師：東北大学環境科学研究科 教授 駒井 武

講演要旨： わが国の土壌汚染対策では、水銀、ベンゼン及びシアンのように揮発する可能性がある化学物質でも土壌の直接摂取と地下水経由の飲用のみを評価の対象としている。しかし、豊洲市場の汚染問題にみられるように、これらの化学物質が揮発して地上への影響が懸念される場合には、法規制に加えて独自のリスク評価を実施することが求められる。本講演では、揮発する化学物質の地下水や土壌汚染の考え方を整理するとともに、揮発する成分を対象としたリスク評価の結果、さらにはリスク低減措置の事例について紹介する。

16:35～16:40 閉会挨拶 埼玉県地質調査業協会 技術委員長 阿部 博